鳥取県が輩出した音楽家の童謡唱歌

	作曲	作詞	曲名	備考
1	岡野　貞一	高野　辰之	春が来た	
2		高野　辰之	春の小川	
3		高野　辰之	おぼろ月夜	
4		高野　辰之	もみじ	
5		高野　辰之	ふるさと	
6		作詞者不詳	桃太郎	
7	田村　虎蔵	桑田　春風	虫の音楽隊	
8		巌谷　小波	一寸法師	
9		石原　和三郎	大黒さま	
10		大和田　建樹	青葉の笛（敦盛と忠度）	
11		石原　和三郎	きんたろう	編曲　坪野　春枝
12		石原　和三郎	はなさかじじい	編曲　坪野　春枝
13	保田　正	坂口　淳	ひばりと麦笛	
14	高木　東六	サトウハチロー	チップタップ　ロンロン	
15	永井　幸次	松岸　寛一	五一じいさん	
16	足羽　　章	武鹿　悦子	ナコちゃん	
17	村尾　義春	谷田　草路	お昼寝ねんね	
18	木村　信之	斎藤　信夫	人工衛星の歌	

＊童謡・唱歌のふるさと鳥取こどものうた名曲・日本創作童謡コンクール作品集（平成23年3月鳥取県「童謡・唱歌のふるさと鳥取」企画実行委員会編集・発行）に掲載されているものです。

岡野　貞一（鳥取市）
明治11年鳥取市古市に生まれる。吉方小学校（現修立小学校）を経て、24年因幡高等小学校（現久松小学校）を卒業する。 明治26年、キリスト教系の薇陽学院に入学し、米人宣教師アダムスに楽才を認められ、音楽への道を志す。 明治29年、東京音楽学校（現東京芸術大学）に入学、33年に卒業し同校の研究科生となる。その後助教授を経て、大正12年に教授に昇任し、昭和7年に退官する。 この間、文部省唱歌の編さん、作曲委員として多くの唱歌を作曲する。音楽教育の発展に大きく貢献する一方、熱心なクリスチャンであり、40年間、中央会堂（現本郷中央教会）で毎日曜日には礼拝オルガンを弾き、聖歌隊を指導するなど信心深く、誠実な人格者であった。 昭和16年に没する。「ふるさと」「おぼろ月夜」「もみじ」など作曲。
田村　虎蔵（岩美町）
明治6年、岩美郡岩美町馬場に生まれる。25年に鳥取県尋常師範学校を卒業し、因幡高等小学校に赴任するが、同年9月、東京音楽学校に進学する。 明治28年卒業後、兵庫県尋常師範学校を経て、32年に東京高等師範学校兼東京音楽学校助教諭となり、ここで、音楽教育の改革を次々と行う。 『言文一致唱歌』を提唱し、児童の発声法の改善を唱え、鑑賞教育の必要性を強調したことである。 70年以上前にこれらの改革を推進したわが国音楽教育の偉大な先駆者であるだけでなく、今もなお、愛唱されている数多くの唱歌の作曲者として著名である。 音楽教育と作曲の分野だけでなく、東京市視学として行政面でも手腕を振るっている。 昭和18年に没する。「大こくさま」「きんたろう」「はなさかじじい」など作曲。
保田　正（倉吉市）
大正4年、東伯郡関金町（現倉吉市関金町）安歩に生まれる。稲葉小学校、角盤高等小学校、鳥取県師範学校を経て、12年に武蔵野音楽学校（現武蔵野音楽大学）を卒業する。 昭和17年、交声曲「万葉三首による」が第11回音楽コンクール作曲部門第2位に入賞。19年、歌劇「矢の根」を作曲、NHKで国際放送され、26年にはトルストイ作の歌劇「復活」を作曲、上演される。 昭和21年からは、子供オペレッタ、放送劇等の作曲を続ける一方で、25年から46年にかけて「さくら子供会」を主宰し、NHK、民放、レコード等で活躍する。昭和26年、日本ビクター専属作曲家となり、多くの童謡レコードを制作する。 昭和22年から63年まで、武蔵野音楽大学講師（作曲理論）として教壇に立つ。 その後、「日本童謡の会」副会長として、童謡の普及と指導にあたった。 平成17年に没する。主な童謡に「ひばりと麦笛」「春の足音」、出版物として保田正童謡曲集「こうまのゆめ」など。
高木　東六（米子市）
明治37年、米子市に生まれる。神父の父の影響で幼少時代から聖歌に親しみ、2人の姉からオルガンと教会音楽を学ぶ。 大正13年に東京音楽学校に入学するが、昭和3年に中退し、翌年パリ国立音楽院に入学する。1年後、スコラ・カントルム音楽院に入り、ダンディに作曲を学び、7年に卒業するが、帰国後はピアノ独奏会を開き、フランスの作品を多数紹介する。 昭和16年作曲「朝鮮舞踊組曲」は、満州新京交響楽団応募作品で第1位に入賞し、中でも『朝鮮の太鼓』は文部大臣賞を受賞する。 オペラ「春香」をはじめとして、作品は、管弦楽曲、室内楽曲、ピアノ曲、歌曲、舞台音楽と多岐にわたり、昭和25年に大流行した「水色のワルツ」はあまりにも有名で、シャンソン、ポピュラー曲も多い。 昭和55年、勲四等旭日小綬章を受章。 平成18年に没する。童謡では「チップタップロンロン」「おやすみなさい」など。

永井　幸次（鳥取市）

明治7年、鳥取市西町に生まれる。クリスチャンの父の影響で、教会で賛美歌やオルガンにふれ、音楽の素養を身につける。
明治29年に東京音楽学校を卒業し、静岡県師範学校を経て、33年に鳥取師範学校に赴任する。鳥取中学校と鳥取高等女学校も兼務し、合唱とオルガン演奏を指導する。
明治38年、神戸市立中宮小学校に出向する。後に大阪府立清水谷高等女学校に転任し、このころから、外国の教科書の研究、音楽教科書の自主編さん、作曲などを行う。
大正4年、私立大阪音楽学校設立の認可を受け、関西で最初の音楽学校を創設する。以後、校地や制度の整備を進め、昭和33年には大阪音楽大学に昇格させる。
生涯の理想を実現する一方で数多くの唱歌や合唱曲を作曲し、楽譜を出版する。
昭和40年に没する。「五一じいさん」「ささ舟」「希望」など作曲。

足羽　　章(南部町）

明治45年、西伯郡西伯町（現南部町）法勝寺に生まれる。中浜小学校、御来屋高等小学校を経て、昭和8年に鳥取県師範学校を、11年に東京音楽学校を卒業する。
同年、和歌山県立粉河高等女学校教諭として赴任し、ここで友人3人と作曲発表機関誌を発行して、歌曲「椰子の実」「沼の日暮」を発表する。
昭和14年、日本コロムビアに入社し、プロデューサー兼ディレクターとして学校教材レコードの制作に従事する。後、コロムビア学芸部部長、同邦楽部部長、ビクター音楽産業第二文芸部部長を歴任し、その間童謡協会設立に協力。同協会監事を長期間勤める。
また、子どもの音楽教育のため、童謡、ピアノを教え、音楽学校受験生に発声訓練等を教授するなど、自宅における音楽訓練を総じて、「あしのめ会」と名づける。
平成11年に没する。
「ナコちゃん」「走れヨット」「カバさんあくび」などの童謡や、校歌を始め、数多く作曲しているが「境港市歌」「西伯町歌」等の作曲もある。

村尾　義春（米子市）

大正9年、米子市道笑町に生まれる。米子中学校（現米子東高等学校）から東京音楽学校へ進み、昭和16年に同校を卒業する。島根師範学校女子部に勤務中に終戦となり退職する。その後、倉吉高等女学校、静岡県の高等女学校等に勤務していたが病のため帰郷。
昭和26年から3年間にわたる闘病生活の中で、作曲の勉強に力を入れ、第15回子どもの歌作曲コンクール第1位など、各種のコンクールで入賞、入選する。また、昭和30年、星野哲郎氏作詞の「桐の実」を作曲。NHKラジオ歌謡で入選作品となり、作曲への自信を深めた。
その後、米子北高等学校の教師として勤務。作曲活動への情熱はさらに高まり、「杉音頭」、校歌を始め、童謡の作曲に力を注ぐ。
現在、日本著作権協会・日本童謡協会に所属し、童謡の作曲活動のほか、歌の指導にも力を注いでいる。
「お昼寝ねんね」「ふる里山から」など作曲。筆名の桐野涼は星野哲郎氏の命名。

木村　信之（日南町）

大正12年、日野郡日南町下阿毘羅に生まれる。阿毘羅高等小学校を経て、昭和17年に鳥取県師範学校を卒業し、角盤国民学校に勤めるが、音楽の道を志し、翌年東京音楽学校に入学する。
一時軍務につくが、昭和23年に同校を卒業し、群馬県師範学校及び群馬大学に勤務する。
昭和25年から36年まで東京学芸大学附属大泉小学校教諭として勤務する間に、「新しい子どものうた作曲研究会」同人となり、子どもの歌を多数作曲、発表する。
昭和36年に東京学芸大学講師となり、以後、助教授、教授として音楽教育の研究と学生の教育にたずさわる。61年に退官し、名誉教授となる。同年文教大学教授に就任し、平成5年に退職する。昭和59年から63年まで日本音楽教育学会の会長を務めるなど、音楽教育界の発展に尽くす。昭和60年のわかとり国体では、作曲した「人工衛星の歌」が行進曲に採用される。
平成11年、勲三等瑞宝章を受章。主な作品に「人工衛星の歌」「ちるよ木のはが」など。

ふるさと音楽賞日本創作童謡コンクールで生まれた童謡

	作曲	作詞	曲名	備考
第1回「ふるさと」音楽賞受賞曲	高月　啓充	熊谷　本郷	コスモスの花〈二部合唱〉	編曲　伊藤　幹翁
第2回「ふるさと」音楽賞受賞曲	杉田　志保子	新谷　智恵子	海からの　てがみ〈二部合唱〉	編曲　伊藤　幹翁
第3回「ふるさと」音楽賞受賞曲	高月　啓充	熊谷　本郷	風のアルバム〈三部合唱〉	編曲　早川　史郎
第4回「ふるさと」音楽賞受賞曲	土谷　幸男	中尾　寿満子	かあさんお話しましょうか〈三部合唱〉	編曲　鈴木　重夫
第5回「ふるさと」音楽賞受賞曲	足羽　　章	稲穂　雅巳	カバさんのあくび〈二部合唱〉	編曲　森若　三栄子
第6回「ふるさと」音楽賞受賞曲	前多　秀彦	山本　惠三子	麦わらぼうしをかぶると〈二部合唱〉	編曲　上　　明子
第7回「ふるさと」音楽賞受賞曲	長谷川　恭子	長谷川　恭子	さようなら田舎〈三部合唱〉	編曲　森若　三栄子
第8回「ふるさと」音楽賞受賞曲	白川　雅樹	人見　敬子	雪の子守歌〈三部合唱〉	編曲　白川　雅樹
第9回「ふるさと」音楽賞受賞曲	西澤　健治	橘　　憂	朝の光がまぶしい時は〈二部合唱〉	編曲　西澤　健治
第10回「ふるさと」音楽賞受賞曲	高月　啓充	後藤　基宗子	風とあくしゅ〈二部合唱〉	編曲　高月　啓充
第11回「ふるさと」音楽賞受賞曲	橋本　玲子	山本　惠三子	きみがふるさとを発つ日に〈二部合唱〉	編曲　橋本　玲子
第12回「ふるさと」音楽賞受賞曲	熊谷　佳和	竹本　　聖	ギュッのまほう〈二部合唱〉	編曲　熊谷　佳和
「ふるさと」音楽賞日本創作童謡コンクール第10回記念曲	湯山　　昭	藤　　美子	海を見ていると〈二部合唱〉	編曲　湯山　　昭
「童謡・唱歌のふるさと鳥取」シンボルソング	中田　喜直	こわせ・たまみ	ここは　ふるさと〈二部合唱〉、〈混声四部合唱〉	編曲　中田　喜直